

平成29年度

大阪市ボランティア活動振興基金・福祉課題
に取り組む調査研究支援事業

報告会

いつまでも元気に暮らすために
～高齢者のQOL・ADL
の維持・向上を目指して～



四條畷学園大学 作業療法学専攻

理学・作業療法士 野口 裕美

調査研究支援事業

- 実施期間：平成29年9月～平成30年1月
- 実施回数：月に1回（合計5回）
- 実施時間：1回1時間
- 実施内容と目的

1、ふれあい・・・情緒安定、
コミュニケーション能力向上

2、バンドナ・・・上肢機能維持
巧緻動作能力維持

3、散歩・・・歩行能力維持、自信・意欲の向上

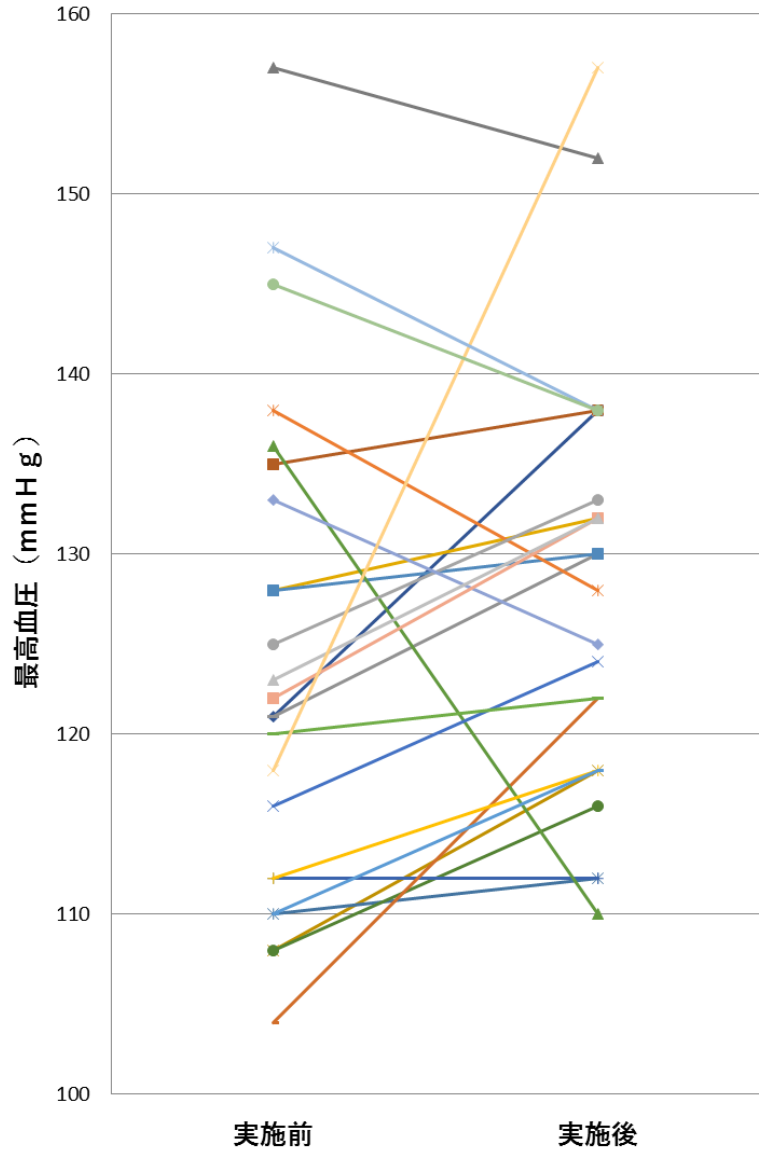
4、フラフープ・・・上肢・下肢筋力維持
他者との取り組み、交流



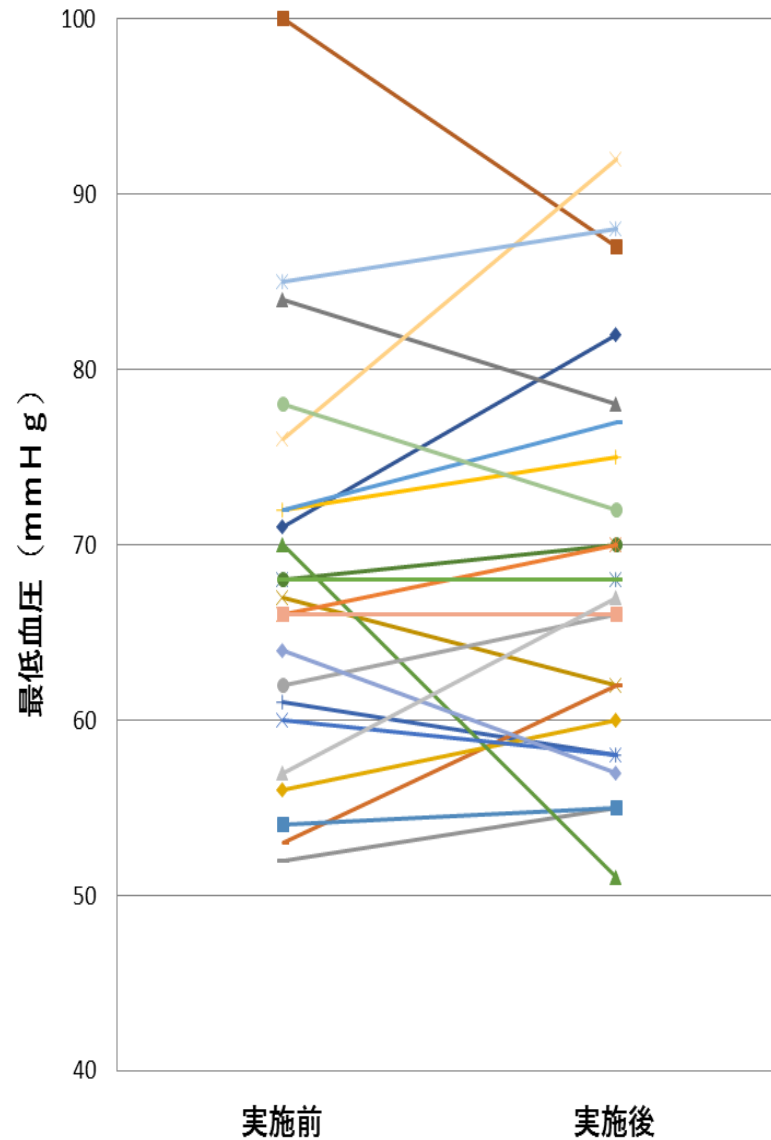
	住宅型有料老人ホーム 施設A	介護付有料老人ホーム 施設B
施設規模	45床	162床
参加スタッフ	介護職 最低1名 理学療法士 1名 ボランティア 2～3名 犬 2～3頭	介護職 最低1名 (1人～3名) ボランティア 1～3名 犬 1～3頭
実施方法	動物介在療法 (A A T)	動物介在活動 (A A A)

血压变化·脉拍变化

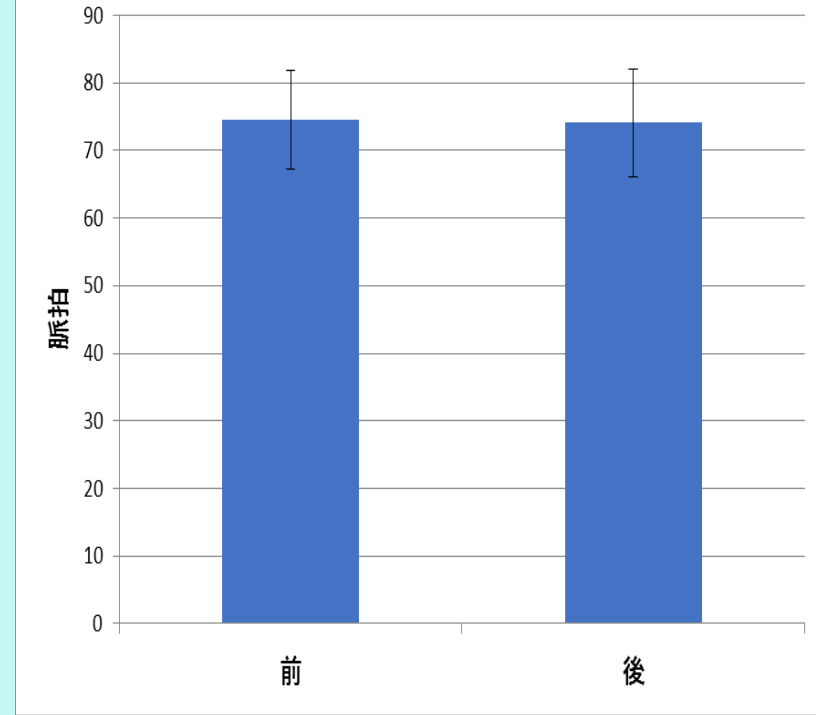
最高血压变化



最低血压变化



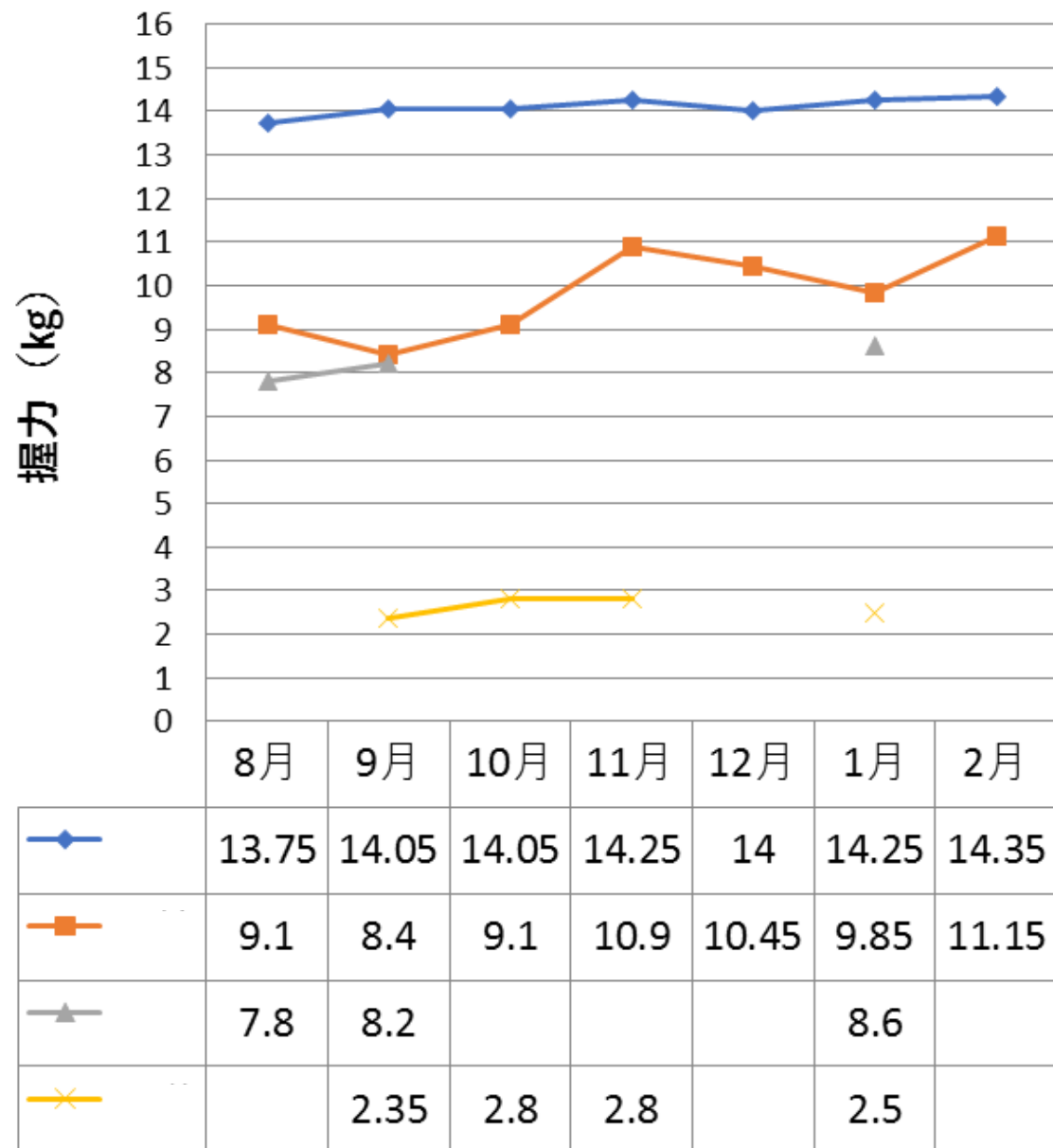
脉拍变化



握力の変化

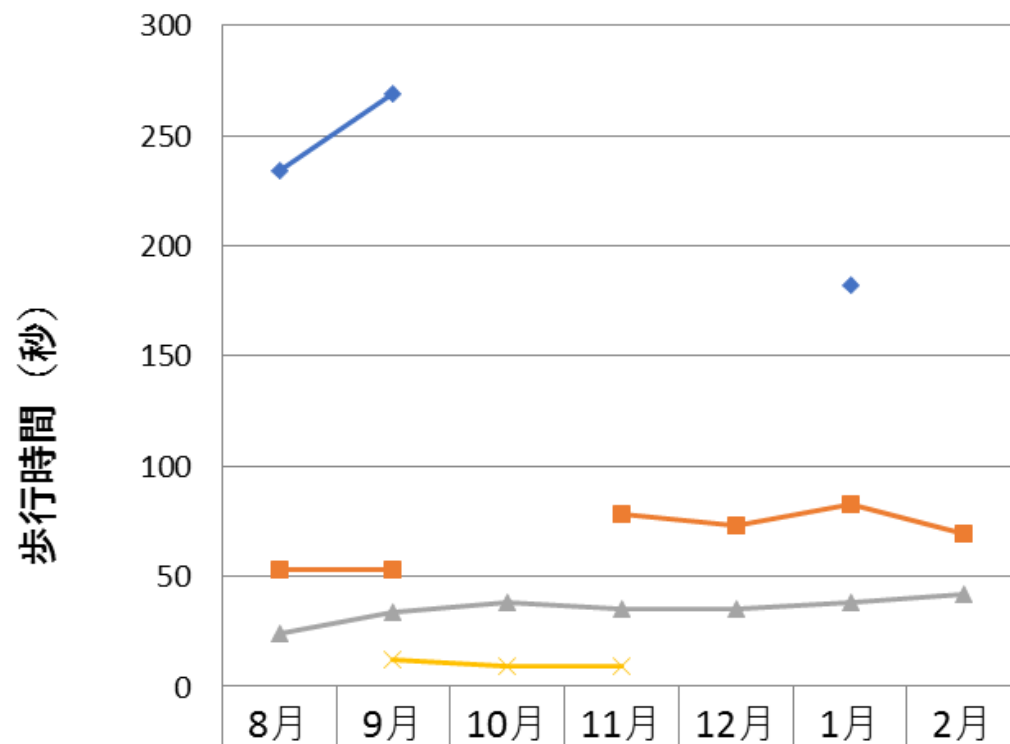


握力の変化



歩行変化

歩行時間変化（廊下 1 往復）



◆杖、手すり	234	269				182	
■押し車 (9月まで) 杖 (11月～)	53	53		78	73	83	69
▲独歩	24	34	38	35	35	38	42
✕独歩、見守り、 一部手すり、5 m		12	9.5	9.5			



A氏 69才 女性（脳梗塞後遺症 左片麻痺）

目的：めまいの訴えがあり、転倒への恐怖心あり、バランス能力向上



平成28年 10月～	実施前	実施中	実施後
1回目 (9/1)	<p>犬の飼育経験あり ベット上臥位にてラジオを聴取しつつ 傾眠傾向。応答スムーズ。協力的。 スタッフに依存的。 目的があると自発的に活動可能。 歩行動作練習には意欲的。 麻痺上下肢が後方に残り歩行速度の向上は困難。</p>	<p>歩行器にて食堂へ。 久々に来た犬の名前を覚えている。 犬との触れ合いを楽しむ。 他の方に犬が行ってしまうと悲しそうな表情をされる 散歩距離20m程度、5m歩行速度38秒。 スカーフ結びは前回よりも固く結べたが犬の動きで外れてしまう。 以前に頻繁にみられた感情失禁は無し。</p>	<p>疲労の訴えあり。 ベット上臥位にて過ごす。 おやつタイムにも自発的には来訪無し。 ナースコールにて介助求める。</p>
2回目 (11/10)	<p>歯の痛みにて検査には非協力的。 ドックセラピーは楽しみにしている。 スタッフに依存的。</p>	<p>歩行器にて食堂へ。 感情失禁は無し。</p>	<p>抜歯後、痛みの訴え無し。 傾眠傾向。 動作練習拒否が続く。</p>
3回目 (12/8)	<p>眠気や倦怠感により動作練習拒否 「ワンちゃんに会いに行く」と言われるも自発的には動かない</p>	<p>散歩にて速度や安定性の低下著明 距離を短縮。ふらつきにて手すりを併用</p>	<p>散歩にて体力低下を自覚 リハビリで自発的に「歩く練習する」と言われる</p>
4回目 (1/12)	<p>ベット上臥位にてテレビ・ラジオをつけつつ傾眠傾向。スタッフに依存的。声かけを3回にて応答。ドックセラピーを伝えると発語は無いがバイタル測定のために腕を出す等、協力的。再度入眠。</p>	<p>歩行器にて食堂へ。 大型犬、お気に入りの中型犬が不参加で、少し残念そうであるが別の中型犬の姿に顔をほころばせる。 感情失禁は見られず。 触れ合い・散歩（杖）・フラフープでのジャンプを楽しまれる。 歩行速度向上傾向あり</p>	<p>杖歩行不安定。4点杖購入希望。 不安の訴えはあるが動作練習拒否無し。</p>

B氏 91才 男性

目的：活動量向上、リハビリ参加回数を増やす


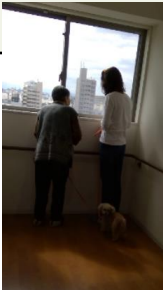


平成28年 5月～	実施前	実施中	実施後
1回目 (10/4)	イベントをきっかけに居室を出てくる頻度は上がってきている リハビリ拒否は継続	入浴後、独歩にて食堂へ立ち寄る 終始、穏やかに参加 散歩は少し嫌がるも20m程度実施可能	「しんどいわ」と話される 日常の活動量に大きな変化無し。
2回目 (11/10)	リハビリ拒否は継続	入浴後、立ち寄る 短時間であったが、終始、穏やかに犬との触れ合いを楽しむ	日常の活動量に大きな変化無し
3回目 (12/8)		入浴後、立ち寄る 短時間であったが犬との触れ合いを楽しむ。	リハビリ拒否は継続中 体調に関して「全身がしんどい」というネガティブな発言から「今日はまだいい方だ」比較的 ポジティブ な発言傾向へ
4回目 (1/12)	リハビリ拒否は継続	自発的 に食堂へ (声かけはしていない) 椅子に座って、最後まで参加 触れ合い・散歩(杖)・フラフープでのジャンプを楽しむ 仙骨座りであるが、痛みや疲労は無し	リハビリ拒否は継続中 イベント など、きっかけがあれば居室から出てくる機会は 増加

C氏 85才 女性

目的：ふらつきに伴う転倒への恐怖心あり、バランス能力向上



平成28年7月～	実施前	実施中	実施後
1回目 (9/1)	<p>ベット上端座位にて過ごす。 声掛け、応答スムーズ。 ふらつき無し。 ドックセラピーを忘れていたが声掛けにてすぐに思い出す。</p>	<p>押し車にて食堂へ 携帯の待ち受け画面の写真撮影 スカーフをしっかりと固く結び、はずす事が可能。 散歩は独歩で20m。5m歩行15秒20。</p>	<p>変わりなく過ごす 疲労無し。</p> 
2回目 (10/4)	<p>可数は多くは無いが、毎日、廊下を押し車歩行</p>	<p>押し車にて食堂へ。携帯の待ち受け画面の更新 スカーフをしっかりと散歩は独歩で20m。 終始、穏やかに犬との触れ合いを楽しむ</p>	<p>変わりなく過ごす 疲労無し。</p>
3回目 (11/10)	<p>2日前に腹痛あり、めまいの訴え無し 「今日はワンちゃん来る日やろ？」と居室の入口で待っている。検査に協力的</p>	<p>押し車にて食堂へ。携帯の待ち受け画面の更新 散歩は杖歩行で20m 終始、穏やかに参加、</p>	<p>変わりなく過ごす ふらつきや腹痛の訴え無し</p>
4回目 (12/8)	<p>めまいや腹痛の訴えなし 毎日、廊下を押し車歩行 ワンちゃんが来る日を理解している 検査に協力的 日時を間違えたり混乱する様子は最近はない</p>	<p>押し車で食堂へ。携帯の待ち受け画面の更新 散歩は杖を使用 終始、穏やか 携帯の待ち受け画面の更新</p>	<p>穏やかに過ごす 不調の訴えなし</p> 
5回目 (1/12)	<p>毎朝食後、押し車歩行を3周実施 めまいや腹痛の訴え無し</p>	<p>押し車にて食堂へ。携帯の待ち受け画面の更新 触れ合いを楽しみ、時には他の参加者へ譲る配慮がみられる 散歩は独歩、疲労時に手すり使用にて自身の判断で工夫 触れ合い・散歩・フラフープでのジャンプを楽しむ</p>	<p>友人の入院で活気低下傾向 リハビリは積極的 自主トレも実施 リハビリ内容をレベルアップ</p>

D氏 81才 男性

目的：自ら発言し、会話に参加する



平成28年 6月～	実施前	実施中	実施後
1回目 (9/1)	ベット上臥位。 傾眠傾向 。体力測定は協力的。 対応はスムーズ。 服薬の関係で 女性に発言 が多い	入浴後に途中参加 疲労感あり 「入浴後にて犬には触らない」と言われるが 雌犬には拒否せず	変わりなく過ごす 疲労無し
2回目 (10/4)	ベット上臥位で 傾眠傾向 。 「今日はワンちゃん来る日」と伝えるが 「今日はしんどいしええわ」と返答 男性スタッフに セクハラ発言 男女問わず、手を振り対応	独歩で食堂へ 覚醒良好。笑顔で手を振り挨拶する。 犬との触れ合いを楽しむ 発言多いが内容はセクハラ寄り	活動量、発言量は増加傾向 相手によって発言内容は変えている、 エスカレートする事あり 周囲の利用者を怒らせ、 トラブル をしばしば生じるようになってきた
目的	発言内容がエスカレートしやすくトラブルを生じる恐れあり、落ち着いて過ごす		
3回目 (11/10)	部屋に施錠してしまっている 男女問わず、声をかける事が増加。相手の対応 によって会話内容がエスカレートし、 周囲の 利用者の反感 を受ける	「犬は嫌い」 犬に触れず 。 人間に興味 を寄せ、スタッフに絶えず声かける	活動量、発言量は増加傾向 女性ホルモン投与開始 現状は投薬前後の変化はなし
4回目 (12/8)	居室にてTV鑑賞 ピーク時よりもやや 落ち着いた 印象 億劫そうな印象を受けるも拒否は無し	笑顔で手を振り挨拶する。 犬と触れ合いを楽しむ 発言内容の 過激さ他者の苛立たせる 様子は減少	女性ホルモン継続。 極端な活動量の低下無し 発言回数、居室から出てくる回数の減少 、 落ち着きはあるが今後は 活動量が低下し過ぎる事に注意
5回目 (1/12)	ベット上臥位、TV鑑賞。 傾眠傾向 。起き上がらず。 「今日はワンちゃん来る日」と伝えるが 「今日はしんどいしええわ」と返答	入浴後参加 自発的な発言・動きなし 一見、穏やか。声掛けには反応あり。 拒否は無し。 活動を楽しまれる 。	時々、 事務所に来るが頻度は減少 。 近隣者に話しかけ、なぜか怒りをかう。 発言内容はエスカレートせず

E氏 80才 男性

目的：穏やか、活動的に過ごす



	実施前	実施中	実施後
1回目 (9/1)	床マット上でTV鑑賞 声掛け応答、検査スムーズ。 易怒性無し 前日、夜勤スタッフと翌日の予定確認時に行き 違いで 不機嫌 となるが ドッグセラピーの話題に て少し穏やか になる	独歩にて食堂へ 椅子に座り、終始、穏やか 中型犬の飼育経験あり 犬との触れ合いは慣れた様子	ふらつきなく、独歩にて帰室 午後の訪室は快く対応 疲労無し
2回目 (10/4)	ベット上臥位で 傾眠傾向 声掛け応答あるも 疲労残存傾向 「今日はワンちゃん来る日ですよ」に対して 「聞いてます。楽しみにしています」と返答され る	独歩にて食堂へ 待ち時間があるも苛立つ事無く、 穏やかに待つ。 にこやかに、犬と触れ合う。 散歩は独歩で20m	疲労無し いつも通り過ごされる 夜更かし継続、翌日疲労残存、 サービス拒否傾向継続
3回目 (12/8)	デイサービス申し込んでいるが体験に1度行っ たのみで以降、 拒否が継続。ドッグセラピー前 に血圧の計測依頼 すると食事中にも関わらず、 受け入れる	独歩にて食堂へ 椅子座位にて 穏やかに犬との触れ合い を楽し まれる 終盤、早めに切り上げ居室に戻る	居室にてDVD鑑賞で楽しまれる。 デイサービスへは1月～行こうと思っ ている
4回目 (1/12)	ベット上でTV鑑賞 ドッグセラピー前の血圧計測依頼に「そういえ ば昨日スタッフが言ってたね」とにこやかに話 され 協力的	バイタル時に時間を伝えておくと、開始時間 に独歩で 食堂へ 椅子座位にて 触れ合いを楽しむ バンダナ・散歩・フラフープ支えもスムーズ。 待ち時間は少々 退屈 そうであったが声掛けに 笑顔で対応。	易怒性は徐々に減少傾向 居室からでてくることは少なく、 サービス拒否継続

F氏 81才 男性 (脊柱管狭窄症、肺気腫、硬膜下血腫)

目的：認知症進行予防、不穏症状の緩和・抑制



平成29年 8月～	実施前	実施中	実施後
1回目 (9/1)	施設内徘徊、紙を破く行動 前々日から熱発 当日は2階事務所前の椅子座位にて傾眠傾向	独歩にて食堂へ 椅子座位にて穏やか 犬との触れ合いを楽しみフラフープを 足も使用してしっかりと支える	実施前と同様に事務所前の椅子でぼんやりと 座位 夜間に徘徊が多く 精神安定剤投与も効果無し
2回目 (10/4)	夜間睡眠不足 日中傾眠、不穏 バイタル測定受け入れる 体力測定は拒否 やや不穏、声掛けに少し怒った様に返答	独歩にて食堂へ 犬との触れ合いを楽しまれるも時間の 経過と共に傾眠傾向出現。 不穏無し、易怒性無し 声掛けに対してぼんやりとされている。 座位のレクのみ参加	夜間の睡眠不足継続 翌日も不穏・傾眠傾向継続
3回目 (11/10)	夜間の睡眠は不十分 朝はしっかりと起床 穏やか、検査にも協力的	独歩にて食堂へ 椅子座位終始、穏やか レクへ協力的に参加 バンダナ結びには戸惑い、介助や口頭 指示を要する 後半は傾眠、早めに終了	以前ほど不穏症状はないが 特別の男性とのやり取りで怒りを顕わにする 時々、夜間に覚醒、日中傾眠傾向
4回目 (1/12)	夜間睡眠十分であるが傾眠傾向。 昨日、突然怒り出す様子が頻回あり	穏やかにふれあい楽しむ 小型犬のバンダナ結びに少し介助を要 した。時間がかかっても、手出しされ ても苛立つことなし	徘徊、物の分解行動減少 何らかの理由で不穏になると徘徊は容易には 防げない。 易怒性も改善傾向であるがいったん怒り出す とおさまりには時間を要する

G氏 81才 女性

目的：めまいの訴えがあり、転倒への恐怖心あり、バランス能力向上



平成28年 10月～	実施前	実施中	実施後
1回目 (9/1)	2か月入院後の活動再開 口数が減り、 活気低下 ベット上臥位 声掛け応答、検査スムーズ ふらつきの訴え無し 起き上がり、歩行など自立	終始落ち着いた 様子で犬との触れ 合いを楽しむ スカーフを預けていたが、 物盗み行動もみられず	直後は興奮 されていた 廊下を歩き回り、他の居室に入る様 子あり 昼食後は落ち着き、ベット上にて過 ごす 疲労の訴え無し 声掛け対応はスムーズ
2回目 (10/4)	口数、居室から出てくる頻度は 少し増加 入院前よりは落ち着いたまま 立ち上がりの際にふらつきあり	終始落ち着いた 様子で犬との触れ 合いを楽しむ 歩行時に時々ふらつきが見られる	直後も比較的落ち着か れている。 主に居室内で過ごされる。 疲労の訴え無し
3回目 (1/12)	腎結石・肺炎による発熱で入院 後の活動 車椅子で事務所前で過ごす 時々、傾眠傾向 声掛けには対応し、協力的	腎結石・肺炎による発熱後にて触 れ合い、見学のみ 終始穏やかに 過ごす 胸やけを訴えて唾液を吐き出す事 があるが ドッグセラピー実施時 には見られず	活動量が上がって きているため、 転倒リスク が高まり始めている 服薬の副作用によって体幹の傾斜を 生じており、車椅子座位でも要見守 り状態



担当理学療法士からのまとめ

動物介在療法の効果とは

- ・ 癒し …… 命ある存在との関わり
- ・ メリハリ …… 生活にメリハリを作る効果

・ **動物介在療法** : イベント的な役割 …… 月に1回

・ ここがしたら…
・ 1か月後を楽しみにしてる

活力

→ 『ワンちゃん来るよ～』 → 『前のめり』

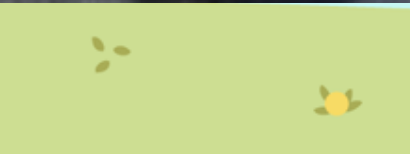
・ **リハビリテーション** : ルーチンワーク …… 週に1回



施設 B

	介護職より事前情報	動物との関係
A氏	声掛けは理解可能	犬好き
B氏	寝たきり 発語少ない 声掛けには表情で反応	畑仕事の際に犬の糞があったりして犬は嫌い
C氏	穏やか 自発的な会話は少ない	鳥の飼育経験あり 動物好き
D氏	穏やか 居室で過ごす事が多い	猫の飼育経験あり
E氏	穏やか 自発的な訴え少ない 居室で過ごされる事が多い	犬猫の飼育経験あり 犬猫は大好き





まとめ

- ・ 施設 A、B の2施設で動物を介在させた事業を実施した
- ・ 施設 A は理学療法士の介入により動物介在療法を実施
- ・ 施設 B は内部のセラピストの関与は無く、動物介在活動を実施
- ・ 実施内容は同様の取り組みとした
- ・ **動物介在療法**
 - ・ 集団での介入
 - ・ 各対象者に応じた目標設定
 - ・ 対象者の状況に応じて臨機応変に適切な介入
 - ・ 個別的な効果
- ・ **動物介在活動**
 - ・ 各個人の日常的な状況や変化をとらえる事はできなかった
 - ・ レクリエーション
 - ・ 各個人が集団で楽しく時間を共有

